

日本学術会議/インターアカデミーカウンシル (IAC) 共同主催 原子力発電所事故の影響に関する国際会議

平成 24 年 10 月 10 日

日本学術会議講堂

概 要

日本学術会議は、平成 24 年 10 月 10 日 (水)、インターアカデミーカウンシル (InterAcademy Council: IAC) との共同主催という形で「原子力発電所事故の影響に関する国際会議」を開催しました。同会議には、IAC のメンバー国その他からの代表者に加え、一般の聴衆も参加しました。

「原子力発電所事故の教訓・過酷事故発生時の世界の科学アカデミーの役割」を主要議題とした同会議では、特別講演者である国際科学会議 (International Council for Science: ICSU) 会長のユエン・ツェー・リー氏から「岐路に立つ人類社会 (仮訳)」(Human Society at the Crossroads) というテーマでご講演をいただき、現在の人間社会の発展パターンは持続可能な形になっていないことを指摘するとともに、東京電力福島第1原子力発電所の過酷事故に見舞われたこの機会に、人類は大きく舵を切りなおす必要があるとの警告が発せられました。

東京電力福島第1原子力発電所の過酷事故を受けて国会に設置された「東京電力福島原子力発電所事故調査委員会 (国会事故調)」の委員長を務めた黒川 清氏 (日本学術会議前会長) からは、東京電力福島第1原子力発電所の過酷事故を引き起こした原因についての調査結果が報告され、日本は今後どう対応し、どう変わっていくのかを具体的に示すべきとの提言の内容が披露されました。次に、ドイツ研究振興協会会長であり、ドイツの「安全なエネルギー供給に向けた倫理委員会」(the German “Ethics Commission for a Safe Energy Supply”) の共同議長を務めたマティアス・クライナー氏から、「ドイツのエネルギー移行: 本当の挑戦! (仮訳)」(Germany’s Energy Transition - A Real Challenge!) という演題で、福島原発事故以後、大きな転換を見せた同国のエネルギー政策についてのスピーチがありました。その後、ドイツとは対照的な原子力エネルギー利用推進国の中国からは、中国科学院 (CAS) 原子力エネルギー安全技術研究所の所長 ウー・イーツァン (呉宜燦) 氏を迎え、同国の原子力エネルギー政策について、特に福島原発事故後の動きにつき、人口増加に伴う電力消費の増加と安全性、環境への配慮が同国で強調されていることが説明されました。

福島原発事故後、問題視されているもう一つの観点としての放射線の人体への影響について、放射線医学総合研究所理事長であり、日本学術会議会員でもある米倉義晴氏から、「原子力事故にともなう放射線被ばくに対する医療マネジメント: 挑戦と教訓 (仮訳)」という演題でご講演いただき、被ばくの影響を受けた人々の主な懸念について報告がありました。

フランス科学アカデミー会長のアラン・カーペンティア氏は、2011 年の東日本大震災直後の 3 月 15 日には、早くも「日本との連帯 (仮訳)」(Solidarité Japon) というスローガンの下、日本の震災についての分析の一助となること

を目的とした委員会を率先して立ち上げました。今回のスピーチでは、同委員会による報告書の概要をご紹介いただくとともに、フランスでは安全面及び放射線防護に力点が置かれていることが述べられました。

これらの講演に続くパネルディスカッションでは、先述のスピーカーに加え、各国アカデミーからの代表者等から自身の国のエネルギー政策についてのショートスピーチが行われました。ショートスピーチのメンバーとしては、フランス科学アカデミー副会長のダニエル・リキエ氏、韓国科学アカデミー会員のヨン・スク・コー氏、インド科学アカデミー会長のクリシャン・ラル氏、南アフリカ科学アカデミー顧問を務めるダヤ・レディー氏、英国原子力エネルギー機構会長であり、かつ英国王立協会シニアフェローのロジャー・ジョン・キャシュモア氏、及び全米科学アカデミー国際担当理事のジョン・P・ボライト氏をお迎えしました。自国の原子力政策やエネルギー政策の現状報告に加え、科学・技術の観点からの所見もご披露いただきました。

その後は、パネルメンバーの間で以下の3点についてご議論いただきました：

- 1: 原子力発電所過酷事故から学ぶべき教訓は何か
- 2: 過酷原発事故発生後の日本の現状評価
- 3: 過酷事故発生時の日本学術会議を含む世界の科学アカデミーの役割とは

ここでは、パネルメンバーから各々のお考えをご披露いただきました。

その後は、一般参加者から幾つかのご質問をいただき、関連するパネルメンバーからご回答いただく形でQ&Aセッションを終えました。

この後、パネルディスカッションの部のセッションチェアによる総括が行われました。総括の内容については添付ファイルをご参照ください(但し原文の英語のままです)。

なお、本会議では、IAC 共同議長のロバート・ダイクグラフ氏、IAC 事務局長のジョン・P・キャンベル氏、日本学術会議会長の西岡隆、同副会長の武市正人、小林良彰、春日文子が、開会・閉会挨拶、セッションチェア等を務めました。